

目 次

はじめに

1. 地震時の急傾斜地崩壊危険箇所危険度評価	- 1 -
1.1. 評価を行う上での基本事項	- 1 -
1.2. 危険度評価作業のフロー	- 1 -
1.2.1. 全体のフロー	- 1 -
1.2.2. データ準備のフロー	- 2 -
1.2.3. 計算に必要なメッシュ作成フロー	- 3 -
1.2.4. 標高の読み取りフロー	- 4 -
1.2.5. 評価パラメータの算出フロー	- 5 -
1.2.6. 判別得点の算出フロー	- 7 -
1.2.7. 判別得点の評価について	- 8 -
1.3. 危険度評価作業のまとめ	- 10 -
1.3.1. フロー別のまとめ	- 10 -
(1) 全体	- 10 -
(2) データ準備	- 11 -
(4) 標高の読み取り	- 13 -
(5) 評価パラメータの算出	- 14 -
(6) 判別得点の算出	- 15 -
1.3.2. メッシュ作成が困難な事例	- 16 -
(1) コンターがないため標高が読み取れない例	- 16 -
住宅地図のような地域で、標高は各所にあるものの、コンターがなく斜面として取りにくい、 または取れない例。	- 16 -
(2) メッシュの取り方により勾配が大きく変わる例	- 17 -
棚田地形のため、メッシュの取り方により勾配が大きく変わる。また、実際の斜面勾配に合 わないデータとなる例。	- 17 -
(3) 斜面距離が短く、メッシュが取れない例	- 18 -
(4) 図面作成のミスにより、実際の標高・勾配が確認できない例	- 19 -
(参考資料)	
2. 地震時の急傾斜地崩壊危険箇所危険度評価	- 20 -
2.1. 地震関係資料収集・整理	- 20 -
2.1.1. 都道府県別の箇所数	- 20 -
2.2. 対象箇所のメッシュ作成と代表断面の検討	- 21 -
2.3. 評価パラメータの算出	- 26 -
2.3.1. 標高の読み取り	- 26 -
(1) 斜面勾配の読み取り標高の一覧表	- 27 -

(2)平均曲率の読み取り標高の一覧表.....	- 31 -
2.3.2. 勾配および平均曲率の算出.....	- 34 -
(1)斜面勾配.....	- 34 -
(2)平均曲率.....	- 35 -
2.3.3. 勾配および平均曲率の頻度.....	- 36 -
(1)斜面勾配.....	- 36 -
(2)平均曲率.....	- 37 -
2.4. 最大地震加速度の検討.....	- 39 -
2.4.1. 震源情報.....	- 39 -
2.4.2. 震源位置から崩壊危険箇所的位置までの斜距離の算出.....	- 42 -
2.4.3. 震源位置から崩壊危険箇所的位置までの斜距離の一覧.....	- 43 -
2.4.4. 最大地震加速度の算出.....	- 46 -
2.4.5. 最大地震加速度の一覧.....	- 48 -
2.4.6. 最大地震加速度の頻度.....	- 51 -
2.5. 危険度評価.....	- 52 -
2.5.1. 危険度評価基準による対象箇所の危険度評価結果の概要.....	- 53 -
(1)都道府県別の危険度評価結果.....	- 53 -
(2)判別得点の頻度分布の概要.....	- 57 -
2.5.2. 危険度評価基準による対象箇所の危険度評価の詳細.....	- 59 -
(1)判別得点別の一覧表.....	- 59 -
(2)都道府県別の一覧.....	- 62 -
2.5.3. 頻度分布.....	- 66 -
(1)判別得点の頻度分布の詳細.....	- 66 -
(2)最大加速度の頻度分布.....	- 67 -
(3)勾配の頻度分布.....	- 69 -
(4)平均曲率の頻度分布.....	- 71 -
2.6. 資料収集についての補足.....	- 73 -
2.6.1. 概況.....	- 73 -
2.6.2. 地形・地質状況.....	- 75 -
2.6.3. 急傾斜地の基本データの一覧表.....	- 78 -